

いの流水俳壇

「当季雑詠」

友草 水月選

瀬の音の川面に映える紙の鯉

森岡 照月

(評) 全国に知られるようになった紙のこいのぼりイベント。今年も好天に恵まれ不織布に描かれた色豊かな三百の鯉が日本一と言われる清流に泳いだ。「川面に映える」が美しい様子を捉えている。

波川の川原を埋めた車、橋から見下ろす人々。その様子を見れば多くの人がたに染しんでもらえたのではないかと思う。かつて沖田で菜の花のイベントがあったが川に泳がす紙のこいのぼりは珍しく発想が面白い。

その実施は準備など大変であろうが紙のいの町のシンボルとして是非続けて欲しいものである。

〇四万十川の風ふんまえて五月鯉

田村みさを

山幾重湧き立つ椎の花明かり

片岡 包女

(評) 今年には椎の花が見事に咲いた。仁淀川の上流に目を向けると重なる山々の斜面を盛り上げ湧き立つように咲き乱れ、花明かりしているとの写真の句「湧き立つ」と詠んだのが巧い。

昔は栗と同じように椎の実を炒って食べたものである。椎の花の咲いた翌年に実となり秋に熟れて落ちる。

〇夜も椎の花の匂へる無縁坂

江口 千樹

ストレスを拭き去るかに初夏の風

竹崎たかひろ

(評) ストレスとは「外部からの刺激による心身の異常な反応でいるいるな病気になる」と辞書にある。先の東日本大震災で避難した住民の57%がストレス(PTSD)になっているとのこと。人間関係や急変する社会情勢など私たちは常にその渦中に置かれている。

しかし5月ともなれば気温も上がり空も青く木々の緑も美しい。吹いてくる初夏の微風の清々しさに溜まっていたストレスも拭かれたように感じたのである。

〇庭下駄に足をのせ初夏の縁に腰

星野 立子

足高く上げて踏み入る夏の草

國田 貞子

(評) 春に萌でた草も5月ともなれば茫茫と広がり草丈も伸び高くなって普段の足運びでは入れない。思い切り足を高く上げて入り野苺でも取ったのであろうか。その情景動作がよく分かる句である。

作者は昨年内市内から夫婦で自然豊かな吾北の里に移住され、四季折々の自然を楽しんでおられる。また4月から流水俳句会に入会されたのでご紹介する。

〇夏草や牛の嗅ぎよる馬若き

能村登四郎

二句抄

四万十の川空渡す鯉のぼり

岡村 嘉夫

腰掛ける竜串の岩風薫る

岡村とも子

ふらこに二度目は母をのせて押す

間 浩太

ボケットに薬も入れて春の旅

大川 節弥

早く目が覚めた蛇から穴き出る

風五月友も増えたるランドセル

藤棚の鮮やかなり今日の雨

小野川町子

余花もありいつもの山に憩いけり欠伸するややの喉まで若葉風新緑の大樹にカラス沈みけり遺言書少し書き足し春悔しむ緑の日犬はまちすぐ吾を見る

核家族離れても柏餅
長閑さや山の時報に鉄置ききて
老いの身や心も跳ねる五月かな
増水の川をまたぎて鯉のぼり
どくだみの薬効に合う白十字
春風や里にバイクの音残し
山裂の残雪はるかに峠越す
児らの声途だえて幾歳樟若葉

川村 博子

森岡 照月

片岡 包女

竹崎たかひろ

國田 貞子

友草 水月

名句鑑賞

五月雨を集めて早し最上川

松尾 芭蕉

私がこの句を思いながら最上川の川下りをしたのが、いの史談会秋の研修旅行であった。もう10年以上も前になる。

芭蕉は奥の細道紀行で酒田に向かう途中、五月雨の中川下りをしたのである。兩岸に降った雨は最上川に集まって水嵩を増し濁流となつて「水みなぎって舟あやうし」と述べており「集めて早し」とは正にその情景を飾ることなく捉え端的に表現し見事に詠まれていて巧い一言に尽きる。

この句は325年前の(1689年)芭蕉46歳の時の句である。

最上川は富士川(静岡県)球磨川(熊本県)とともに日本3大急流の一つである。

次題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597
番 89312012

今月のごども川柳

げんかんは おうちのかおだ きをつけろ

川内小 2年 よこばたけゆう

(評) この一句で普段の家庭のあり様がよくわかる。パパママの言いつけを守り、良い子に育っています。うれしい川柳ありがと。

春が来た 一つ大人に 仲間入り

伊野小 5年 谷岡 美咲

(評) 春が来たということは、新しい年になるということ、それは大人へと成長していくこと。小学5年生でこのような考え方ができるのが素敵です。

雨の日は カエルゲコゲコ ドレミファソ

川内小 5年 西内 琴音

春来たり 雪の中から ふきのとう
おにはそと ふくわうちでも くるのかな

長沢小 6年 小森 基登

川内は あいさついっぱい 明るいよ

川内小 4年 古谷ねいろ

こいのぼり かぜにふかれて さむそうだ

長沢小 4年 山崎 光樹

なみゆれて こどもがあそぶ あおいうみ

伊野南小 5年 高橋 祐仁

空見あげ くもがぶかぶか ういている

川内小 5年 高橋 奈甫

※「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは7月10日(木)です。たくさんの方の応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)